

## I 研究について

### 1 情報モラル教育に関する学校の課題

教育相談で「ルールを決めても守らなくて…」と話し、子どものゲーム使用時間に困り感を打ち明ける保護者。「ルールは確認したけれど…」といったルール頼みの家庭や、「守らなくても何も言われない」ということが原因で家族関係でトラブルが生じたり、さらに子ども自身が体調不良に陥ったりしている家庭。学校生活の中で、自分の考え方や感じ方は友達と同じだという思い込みが原因となり、トラブルに困る子ども。このような実態が見られる中、夏季休業明けには、タブレットの家庭への持ち帰りとそのルールづくりを、学校での指導だけでなく、各家庭の協力のもとで取り組んできた。

今年度の研究は、子どもや保護者、教職員や地域の実態をもとに、「表郷小学校だからこそ」と「タブレット導入期ならでは」を踏まえ、ルールの存在と必要性や、よりよく使うためにどうすればよいかについて、子どもの迷いや不安に寄り添いながら、また教師の迷いや不安も含めて考えることで、モラルを育てることを重視して取り組んだ。また、質問紙アンケートだけでなく、保護者の声や教師の見取りから、子どもや保護者、教師の迷いや不安も含めて実態を把握した上で、授業づくりやカリキュラム作成に生かすように心がけた。

### 2 実践概要

#### (1) 研究テーマ

ルールからマナー、そしてモラルへ ～表郷小学校「ならでは」「だからこそ」の情報モラル教育を考える～
--

#### (2) 3年間の見通し

1年次	実態把握を生かした授業構想と指導カリキュラムの作成 (タブレット導入時の困り感・家庭での実態からカリキュラムをつくる)
2年次	情報モラルを育む指導の日常化と家庭との連携 (教科タブレット活用場面での「小刻みな情報モラル指導」と家庭啓蒙)
3年次	子ども・家庭・地域・教員の思いを生かした『表郷小情報モラル』作成 (地域全体で情報モラル教育を考える機会づくり・共通実践)

#### (3) 道徳教育を基盤にした道徳性の醸成と情報モラル教育のつながり

本校では、オンラインゲームの長時間利用やSNS等でのトラブルといったインターネット使用での諸問題について、情報化社会の技術やサービスが進化して問題が生じているという捉えよりも、「相手の立場や気持ちを考える（思慮・思いやり・礼儀）」「自分を律する（節度）」「ルールを守り、正しいことをする（規則尊重・社会正義）」といった子ども一人一人の道徳性の現状と高まりに課題を見いだしている。そのため、情報モラル教育は、「道徳性をはぐくむ」道徳教育を基盤にして「情報技術の特性の理解」を加えて指導することを大切にしたい。

#### (4) 研究を深めるために「実態把握」「授業実践」「実技研修会」を関連させて

夜間のオンラインゲームを長時間使用した影響から朝から体調不良を訴える子どもや、SNS投稿の言葉に一喜一憂して振り回される子ども達を目の前にして「何かできないか」と悩みつつも、「やめたほうがよい」と声をかけるだけだった私たち教職員。メディアとの関わり方

を考え自律する子どもに育ててほしいという思いをこの研究に込め、研修を積み重ねたいと考えた。そこで、1年次は、道徳教育の要である道徳科と、両輪である特別活動の学級活動(2)を中心にして授業実践を積み重ね、教科等の本質と情報モラル教育の接点から授業の質的改善のポイントを探る校内授業研究会を節目として指導力向上を図りたいと考えた。さらに、情報モラル教育への理解と指導力向上をめざした実技研修会を関連させ、年間を通じて、子どもの姿から情報モラル教育の研究を深めることができるようにした。

(5) 今年度の計画 (授業研・実技研)

時期	実施内容
6月25日	実技研 校内研修「本校における情報モラル教育の取組」(今年度の取組)
7月1日	実態把握 情報モラルに関わる実態アンケート実施(対象:児童・保護者・教員)
9月6日	実技研 校内研修「情報モラル教育って何だろう?」(動画視聴)
9月13日	授業研 第1回校内授業研修会 第5学年道徳科 指導助言者 静岡大学教育学部 塩田 真吾 准教授 県義務教育課 肥沼 志帆 指導主事
11月8日	実技研 校内研修「研究校の取組はどうなっているのかな?」(先進校の指導カリキュラム分析) *教育課程編成会議と連ねて
12月20日	実技研 校内研修「迷いや不安に寄り添う授業の在り方」
1月21日	授業研 第2回校内授業研修会 第6学年学級活動(2) 指導助言者 静岡大学教育学部 塩田 真吾 准教授 県義務教育課 伊藤 貴史 指導主事
2月4日	実技研 校内研修「今年度の研究から見たこと」(成果と課題)

II 研究の実際について

1 子どもや保護者、指導する教員の迷いを把握する実態アンケート

(1) アンケート項目に込めた思い

研究を深めていくにあたり、教育相談の懇談内容や日々の子どものエピソードから垣間見ることができる子どもや保護者のメディアとの関わり方とそれに対する考え方について、さらに詳しく知りたいと考えた。そこで、まず保護者を対象に、メディア所持や環境等に加えて、家族内でのメディア使用とルールをめぐるトラブルや困り感を問う項目を設けた。また、保護者と教員には、タブレット導入への不安を尋ねる項目も設けた。さらに、高学年の子ども達には、ロイロノートのアンケート機能を活用して実施し、表郷小学校「ならでは」を把握したいと考えた。

(2) 保護者・教員へのアンケートから見てきたこと (概要)



### ①家庭の状況・意識と影響

- ・ メディア機器の使用時間を決めても守れない子どもに困り感を感じる保護者が多数いる。
- ・ メディア機器使用のルールを決めたことで満足して、現状を把握していない家庭がある。
- ・ メディア機器使用のルール自体がなく、無法地帯化している家庭がある。
- ・ メディア機器使用が長時間に渡り、朝起きられなかったり寝不足が常態化したりして、学校での学習に影響している子どもがいる。
- ・ 家庭でオンラインゲームをした際に、チャット相手とトラブルになり、そのまま学校に持ち込んだり、保護者が学校に仲裁を願い出たりする現状がある。
- ・ 子ども以上に、メディア機器を長時間使用したり手放せなくなったりしている保護者がおり、情報モラルへの意識が低い。

### ②教職員の情報モラル教育への意識や迷い

- ・ 「ルールを決めて規制する」ことを重視する傾向がある。
- ・ マニュアルに基づき操作することはできるが、「突然のトラブルが起きたら…」とマニュアル以外の状況に対応することが難しい。
- ・ 教員が「どの教科で」「どのような内容で」指導していくのかについて迷いが生じ、自信をもって情報モラル教育の推進に向かっていない。

## 2 実技研修会と授業研究会の実際

### (1)【実技研】情報モラル教育に関わる研修

情報モラル教育研究を3年次計画で進めていくにあたり「どのような実態があるのか」「どのような研究をめざしていくのか」といった本校の情報モラル教育推進計画に込めた思いや実践計画について共有する場とした。さらに「従来の情報モラル教育の課題」を踏まえ、これからの情報モラル教育のねらいと課題、「事例紹介やルールの限界」「何をいつやればよいのか」について考えるきっかけとすることを目的として、実技研修会を実施した。

#### 【研究会テーマ】

情報モラル教育って何だろう？～情報社会に主体的に参画する態度を育む指導を考える～

#### ○主な研修内容

##### 〈動画視聴〉

N I T S 独立行政法人教職員支援機構「校内研修シリーズ

No.82：情報社会に主体的に参画する態度を育む指導」

講師：静岡大学教育学部 准教授 塩田真吾 先生



##### 〈研修後の教員からの感想〉



「事例を出して怖がらせる指導では、生きて働く情報モラルは身につかない」という内容にドキッとしました。

『『使いすぎ』は全員が同じ感覚ではない』には納得です。子ども達と一緒に考えてみたいと思いました。



(2)【授業研】第1回校内授業研究会（道徳科・9月13日(月)）

研 修 目 的	(1) 情報モラル教育について、授業での子どもの姿と教師のかかわりを基に協議を行うことにより、情報モラル教育で大切にしたいことを学び、子どもを見取る目を養う。 (2) 道徳科の授業を通して、道徳科の授業づくりについて協議する。
------------------	--

学年： 5 学年	主題名： けんきよなところで	教材名： 約束（小学道徳・光文書院）
----------	----------------	--------------------

①子どもの実態 ～日々のエピソードとアンケートから～

「相手が嫌なことはしない」ことは大切だと分かっているながらも、ネット等の相手が見えない場面では、相手が傷付いても自分がやりたいことをしてしまったり、不本意な状況で相手に対して怒りを感じた時に、相手の立場や気持ちを考えずに自分本位で行動したりする「この時期ならではの」「ネットの世界ならではの」子どもの実態が浮かび上がった。

②授業をつくる

子どもの内面にある怒りの気持ちは勿論、「自分にもそういう時がある」という価値観とよさを授業を通じて可視化したいと考えた。そこで、教材「約束」の中の「約束を破られた後の場面」に着目して中心場面として位置付けたり、「相手の事情を聞き、はっとさせられる場面」を扱ったりすることで、自分の気持ちを優先して行動するのではなく、相手の気持ちを考えることの大切さに気付くことができるように授業を構想した。

③授業の実際

〈本時のねらい〉 謙虚な心もち、どのような状況でも相手の立場を考え、広い心で接しようとする心情を育てる。【B-(11)】

学習活動・内容（略）
(1) 自分だったら許せるか許せないかとその理由を話し合う。
(2) 教材を基に気持ちを話し合う。
① 約束を破られた時
② 相手の事情を知った時
③ 相手に許してもらった時
(3) 自分を見つめ直す。



〈授業後の子どもの姿〉

友達が目の前にいなくても、気持ちを考えるよ。



お互いに、相手の気持ちを考えれば、仲良く過ごすことができると思いました。これからそうできるようになりたいです。

③事後研究会での指導助言

【道徳科の視点から】福島県教育庁義務教育課 肥沼 志帆 指導主事

○ 子どもの実態把握を基に、道徳的場面と発問を選定しており、「自分自身との関わりで考える」ことにつながっていた。

● 「相互理解なのか寛容なのか」という価値内容と本時のねらいを見定める必要がある。

【情報モラル教育の視点から】静岡大学教育学部学校教育講座 准教授 塩田 真吾 先生

○ 自分事として捉える工夫、自他の価値観の違いに気付く仕掛けが施されていた。

● 「グループトークに書き込んではいけない」指導からの脱却と「次の日直接謝る」ということのよさを感じさせる必要があった。

\* 情報モラルを基盤に「リスク想像」「スキルを教える」バランスを考える必要がある。

(3)【授業研】第2回校内授業研究会(学級活動(2)・1月21日(金))

研 修 目 的	(1) 授業での子どもの姿と教師のかかわりを基に協議を行うことにより、情報モラル教育で大切にしたいことを学び、子どもを見取る目を養う。 (2) 「現在の自分の課題を見だし、よりよく解決するために考え、自己決定する」という学級活動(2)の特質を生かした授業づくりの具体を協議する。
------------------	--

学年： 6 学年	題材名： 情報機器のよりよい使い方を考えよう【学級活動(2)ウ】
----------	----------------------------------

①子どもの実態 ～日々のエピソードとアンケートから～

多くの子どもは仲良く過ごすことができている一方で、オンラインゲームでのトラブルで指導を受けている児童がいる。アンケートでは、28名中20名がインターネットに接続できる自分専用機器を所持し、平日3時間以上使用している児童が多いことが明らかになった。さらに、メディア機器使用の際の「家族とのけんかや友達とのトラブル」に加え、「寝不足」「なかなかやめられない」といった困り感をもつ子どもが多いことが分かった。

②授業をつくる

使用時間に目が向きがちな子どもの実態を生かし、使用時間だけでは可否判断できない状況を提示し、課題意識を高めたいと考えた。そして「長時間使ってしまう」場面や理由を話し合う中で、誘惑に負けてしまう状況や原因、心の弱さを受け止め探りながら、自らの情報機器との付き合い方を改めて振り返るという授業を展開したいと考えた。さらに、授業後には、時間の使い方に関して、親子で改めて考える機会を設定した。

③授業の実際

〈本時のねらい〉 情報機器のよりよい付き合い方を理解し、自分自身の生活の中で、心身に安全で健康的な情報機器の使い方を考えることができる。

学習活動・内容(略)
(1) タブレットの使い方を話し合い、本時のめあてを見いだす。
(2) 使いすぎに繋がる問題点について考える。
① やりすぎの原因
② 長時間の使用による悪影響
(3) よりよい使い方を話し合う。
(4) 自分の使い方を見つめ直す。



〈授業後の子どもの姿〉

テレビやタブレットの時間帯も気を付けたいです。



時間だけでなく、何に使うかを考えて使っていこうと思います。夜に使わない方がよい理由も分かってよかったです。

③事後研究会での指導助言

【学級活動(2)の視点から】 福島県教育庁義務教育課 伊藤 貴史 指導主事

- 実態に応じた課題、個々の意思決定ができる学習活動、家庭との連携の仕掛けがよい。
- 学年・時期といった「ならでは」をしっかりと考えて、授業を位置付けたい。

【情報モラル教育の視点から】 静岡大学教育学部学校教育講座 准教授 塩田 真吾 先生

- 「メディアを使用する内容」「弱い気持ちに気付く」学習内容となっており素晴らしい。
- 「使いすぎる要因を探る学習に重きを置く」「具体的なスキルを教える」必要がある。

#### (4)【実技研】情報モラル教育に関わる研修

次年度の教育課程編成がスタートするタイミングで、ふくしま情報モラル教育推進協議会で共有された県内の情報モラル教育研究校の取組や、アドバイザー講師陣から指導いただいたことについて伝え、改めて情報モラル教育で大切にしていきたいことを話し合う場とした。さらに、本校の取組のこだわりや成果・課題にもふれ、3年次研究を推進する価値ある節目とすべく実技研修会を実施した。

##### 【研究会テーマ】

研究校の取組はどうなっているのかな？～協議会での協議内容を共有する～

##### ○主な研修内容

- ・伝達 ～「第3回ふくしま情報モラル協議会」協議内容・資料より～
- ・2年次の方向性と教育課程編成について

〈研修後の教員からの感想〉



本校の情報モラル教育の取組が授業研究会や実技研修会を通して、しっかりと分かってきました。

今年度の成果「単元題材内容ベース」を継続しながら、各教科でタブレットを活用する場面・学習活動の「活用ベース」を授業実践から探っていきたいです。



### Ⅲ 成果と課題について

#### 1 成果と課題

- G I G Aスクール構想における1人1台タブレット導入期において、アンケートを実施したことで、子どもや保護者、教職員の期待だけでなく、不安や迷いを把握することができた。
- 「ルールで制限する」といった従来の方法よりも、「問題やトラブルにその都度向き合い、教育するチャンスとする」「スローガ的なルールから実現可能な構えを見いだす」「認識のズレを切り口にする」など、よりよい情報モラル教育のあり方と指導を学ぶことができた。
- 校内授業研究会において、義務教育課指導主事の先生方と静岡大学塩田真吾先生に指導助言をいただいた。道徳科・学級活動(2)の本質と情報モラル教育の両面から御指導をいただいたことで、教科等の本質を生かした授業への指導観を確かにして、質の高い授業研究を行うことができた。また、塩田真吾先生から先進的な取組をお話しいただいたことで、情報モラル教育で育てたい子どもの姿と指導の具体を学ぶことができた。
- 本地区にある保育園や幼稚園、中学校で取り組むメディアコントロール推進委員会で、情報モラル教育研究校としての取組を説明し、地区として推進していくことが決まった。令和4年度は、県PTA大会でも保護者が情報モラル教育を学ぶ場を設定する予定である。
- 今年度は道徳科・学級活動(2)の授業研究で情報モラルの教材・題材を扱い、情報モラル教育を考えてきたが、国語科や算数科といった他の教科等でどのように推進していくかについては、全職員でしっかりと検討する必要がある。
- 教育課程において、情報モラル教育が十分に位置付けられているとは言えない。今年度の学びを生かして、来年度の教育課程にしっかりと反映させていく。

#### 2 次年度に向けて

6年間で育てたい子どもの姿を明らかにし、今年度の取組「道徳・特活・総合における教科領域『単元題材内容ベース』」に加え、各教科のタブレット活用場面・学習活動「活用ベース」で情報モラル教育をどのように指導していくかを次年度に研究していきたい。